

冬季の応急危険度判定技術に関する研究

担 当 部 科 環境科学部都市防災科、生産技術部生産システム科
 研 究 期 間 平成 16～17 年度

研究の目的

現在の被災建築物応急危険度判定は、全国共通の手法であり、冬季に大規模地震が発生した場合、応急危険度判定活動に支障が予想されます。本研究は、冬季の判定技術の提案と、大規模地震を想定した広域的な支援計画策定の考え方を示すことを目的としています。

研究概要

本研究の研究項目は、以下の通りです。

冬季の応急危険度判定技術の検討

積雪による判定障害の課題を整理し、冬季判定技術について検討しました。

冬季の応急危険度判定の流れ

判定士の参集意向調査

広域的な支援計画を検討するため、参集要請に対する判定士の意向の把握を行いました。

参集要請への対応

参加可能な地域

参加可能な時期

広域的な支援計画

広域的な支援を考慮した支援計画の流れを整理しました。

支援計画の検討

北海道地域防災計画で想定されている北海道東部地震を事例として被害想定を行い、冬季を考慮した判定実施条件を整理し、支援計画について検討しました。

北海道東部地震の想定震度

応援判定士派遣に関わる支援計画の検討結果

時期	判定ブロック	判定対象棟数	判定実施期間	1日当たり必要判定士数	判定実施初期期(1次派遣)		2次～5次派遣	
					支援支庁及び応援判定士数	必要判定士の総数	支援支庁	
夏季	釧路西部	4,838 棟	10 日間	65 人	空知支庁: 46 人 上川支庁: 19 人	144 人	576 人	空知支庁、上川支庁 十勝支庁、石狩支庁
	釧路東部	1,594 棟	10 日間	21 人	上川支庁: 9 人 日高支庁: 12 人			84 人
	根室	3,171 棟	10 日間	42 人	上川支庁: 42 人	168 人	上川支庁、網走支庁 石狩支庁	
	中標津周辺	1,192 棟	10 日間	16 人	上川支庁: 16 人	64 人	上川支庁、網走支庁	
冬季	釧路西部	4,838 棟	10 日間	121 人	石狩支庁: 105 人 空知支庁: 16 人	270 人	1,080 人	石狩支庁、空知支庁 十勝支庁
	釧路東部	1,594 棟	10 日間	40 人	空知支庁: 40 人			160 人
	根室	3,171 棟	10 日間	79 人	日高支庁: 12 人 上川支庁: 67 人	316 人	日高支庁、上川支庁 網走支庁、石狩支庁	
	中標津周辺	1,192 棟	10 日間	30 人	上川支庁: 19 人 留萌支庁: 10 人 空知支庁: 1 人	120 人	上川支庁、空知支庁 留萌支庁、網走支庁 石狩支庁	

活用方法・成果

本研究の成果は、支庁地区協議会において判定支援計画を検討する資料になると共に、被災建築物応急危険度判定訓練や応急危険度判定士認定講習会等の技術資料として活用されます。